西照寺寺報「さいしょう」 第43号
2022年10月5日
発行　浄土真宗本願寺派　西照寺
高岡市吉久２丁目４－40
郵便振替口座　00780-8-8185 西照寺
西照寺ホームページ　http://nisitera.eek.jp

報恩講勤修

左記のとおり今年度の報恩講をお勤めいたします
お参りくださいませ

おつとめの時間

十一月六日(日) 午後二時(逮夜)～

住職継職奉告

七日(月) 午前九時半(満日中)～

布教使　林　史樹　師　高岡市伏木要願寺住職

※今年度お斎(御膳)はありません。
また、六日晩のお初夜はありません

西谷山　西照寺

住職継職奉告（じゅうしょくけいしょくほうこく）

この度、西照寺第十四世釋教潤から第十五世釋基正へ、住職を継職していく手続きとして、報恩講の御座(逮夜)に併せて住職継職のお勤めを致します。かといって、特別な事業や法要を企画しているわけではありません。

「新型コロナ」の完全な終息が見通せた折に、新住職のもと門信徒の皆様にご相談うえ、何か事業や法要が計画されるものかと思います。その節、ご高配を賜れば幸甚でございます。　合掌

「新型コロナ」から問われていること

先ずは、「人間中心主義」に対する警鐘ではないかと思います。

人間は、人間相互の関係、さまざまな動植物・大自然との関係性の中で相互に依存し共生しています。そのことを忘れたかのように、豊かさを求め未開の地を開拓し環境を破壊してきた。その結果、野生の動物は住み家を追われ、人間と接触する機会が多くなりました。最近よく、熊や猪など野生の動物が街に出没したというニュースを耳にします。こういうことなのでしょう。

今回は、人間にとって毒性の強い野生コウモリ由来とされる新型コロナウィルスが、人に感染しグローバル社会の中で、あっという間に世界に広がったのではないかと言われています。

二つには、「自分の命は自分のもの、所有物である」という見方の問題です。人間中心主義を生み出す背景にもなっているように思います。

いのちの事実

これは自分の命だと思っていますが、事実は、両親をはじめ長い先祖の歴史の中で、一方的に与えられた命です。私の意志でこの環境に生まれてきたわけではありません。そして命を長らえさせるために、他の動植物の命を取ってこなければ生きていけません。それから、大自然の恵み。心臓一つ、血液の流れも自分の意志で動かしているわけではありません。人間同士の関係性も非常に重要です。

そうすると、さまざまな無限とも言えるようなつながりや支え、関係性の中で、自分でないものによって「生かされている」というのが「いのちの事実」です。

修行道地経に、子どもたちが砂浜で、お城や家や動物やいろんなものを作って遊んでいるという話が出てきます。間違って足で引っかけお城を破損させた子がいました。「俺の城を壊して何てことするんだ」、作った子が怒ります。「ごめん、ごめん」と言って治そうとしますが、うまくいきません。周りの子もはやし立てます。そうこうしている内に夕方になって薄暗くなってきました。みんな家に帰っていきます。残された半分壊れたような砂の造形物は、やがて風や波に流されてもとの砂浜に帰っていくという話です。

これは私たちの命のことを言うているように思います。私

の命の根底には、無限に広がる砂浜のような根源的いのちの世界があります。その中で、いろいろな条件（因と縁）が重なり合って砂の造形物のように、人間という形になったり、動物や花になったりします。そして、条件が変われば違う形になっていきます。このことを仏教では、「縁起」（因縁生起）と教えています。また、どの形（命）に良いとか悪いとかはありません。みな平等であり、物事を区別しないということで「無分別」という言い方もします。

十九世紀の初頭、ドイツの哲学者シュライエル・マッハーは、「宗教の本質とは、宇宙への直観と感情である」と書いています。哲学者にこういう見方をされる方が多いのでしょうか。十数年前に亡くなられた哲学者池田晶子さんは、死ぬときに「池田晶子は死にますが、私は死にません。私は宇宙です」と言われたそうです。確かに、宇宙という根源的ないのちの世界があって、種々の条件が整って、宇宙の一部として「池田晶子」という肉体を持って生まれてきた。池田晶子はいのちの本体ではありませんから、根源的な宇宙のいのちの摂理に従って、生滅変化して元のいのちの本体に帰っていかれたということなのでしょうか。仏教と同質のものを感じます。

自我に生きる

ところが人間は、与えられたこの形（命）を、これは自分の命で私の所有物だという「自我」が生まれます。そうすると物事を「分別」して、自分の都合の良いように生きたいと執着（我執）します。生老病死でいうと、若くて健康で長生きは良い事幸せなことで、老病死は悪い事不幸なことだということになります。

自分の思いや欲望が満たされることが幸せで喜びだ。この欲望は限りなく増大していきます。

「こんな素晴らしい服がありますよ。こんなデザインの車はどうでしょうか」。

人間の欲望を煽るように大量の情報が流されています。大量生産→大量消費→大量廃棄。これが経済を支えてきたと聞いたことがあります。その結果公害や環境汚染破壊が深刻で、さまざまな命が損われてきました。南北の経済貧富の格差。資源の枯渇。深刻なものがあります。

このような状況のなか「新型コロナ」の問題です。このことは、私の根底にある根源的いのちの世界では、あらゆるものがつながり関係性を持っている。

（裏面に続く）

（中面からの続き）

私たちに、自分中心の自我の思いではなくて、その関係性から、自我のあり方を見直していく生活の大切さを気づくようにと、促してくれているように思えます。

釈尊の気づき

釈尊は、人生は「苦」なりと教えてくださいました。人間の本質とは、苦悩したり不安に思ったりすることだと言われるのです。その苦の中でも「死」が根源的です。どんなに自分の思いを遂げ、欲望を満たしても、必ず死ぬようになっています。

この自分の死と真摯に向き合う時、どうしても自分を問わずにはおれません。自分は何のために人間に生まれたのか。この人生にどんな意味があるというのか。何をするための人生なのか。このままでいいのかなどです。私に何か問題があるから、苦悩するのでしょう。苦悩するから私の迷妄に気づくということがあります。

苦悩の背景には、私の迷妄を超えて真実の安楽さとりに到ってほしいという願い、根源的いのちの世界からのはたらきが、はたらいていると釈尊は気づいたのでした。

哲学者でしたら、それは「宇宙からのはたらきだ」というのかもしれませんが、それでは私には分かりません。その私のために、心（感情）に届くように、そのことを悟った阿弥陀様がおられて、念仏となって私を救うために「気づけよ目覚めよ」と、はたらいてくださっている。と教えてくださいました。

このいのちの本源に気づかされた、親鸞聖人は『一切の有情は、みなもって世々生々の父母兄弟なり、いづれもいづれも、この順次生に仏に成りてたすけ候ふべきなり』と述べられています。根源的いのちの世界では、みんなどこかでつながり、関係しているのだから、ある意味では、すべてが私であるという目覚めなのかもしれません。

そうすると自分のことよりも他者のために自分を捨てて生きていこうとする心が促されてきます。そこにこそ、私の生きる意味、生死の問題を超え、救われていく道が開けてくると親鸞様は教えてくださいました。合掌　（文責住職）